

エコアクション 21

# 環境活動レポート

2017年9月～2018年8月

- 1.組織の概要
- 2.対象範囲
- 3.環境方針
- 4.環境目標及び環境活動計画
- 5.環境活動計画の取組結果の評価及び次年度の取組
- 6.環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価  
並びに違反、訴訟等の有無
- 7.代表者による全体評価と見直し結果

発行日 2018年12月18日

小竹印刷株式会社

## 1. 組織の概要

- ・事業所名及び代表者氏名

小竹印刷株式会社

代表取締役社長 小竹 茂文

- ・所在地

東京都台東区東上野 5-7-2

- ・環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

環境管理責任者 営業部長 小竹 康文

Tel 03-3844-5131

Fax 03-3841-7789

[info@kotake-print.co.jp](mailto:info@kotake-print.co.jp)

- ・事業の内容

印刷物・Web サイト等の企画、デザイン、制作

- ・事業の規模

資本金 2,700 万円

売上高 207 百万円（平成 29 年 9 月 1 日～平成 30 年 8 月 30 日）

従業員数 17 名

延床面積 422 m<sup>2</sup>（鉄筋コンクリート 5 階建）

主な設備 印刷機（ハイデル単色機 3 台）

## 2. 対象範囲

- ・登録組織名

小竹印刷株式会社

- ・対象事業所

本社 東京都台東区東上野 5-7-2

（当社は全組織・全活動を対象としています。）

# わが社の環境経営方針

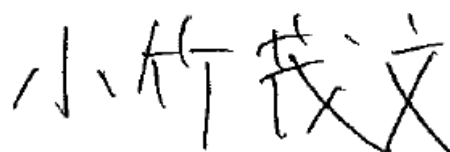
私たち、小竹印刷株式会社は、企画・デザインから印刷までの事業活動において、可能な範囲で最大限「省エネルギー化」「省資源化」「廃棄物の削減」に努め、環境保全に配慮した活動を行うことを基本方針とします。

1. 環境関連法規、条例、規制、協定を遵守し、環境経営の継続的改善に努めます
2. 省エネルギー化を進めて、二酸化炭素排出量の削減に努めます。
3. 廃棄物の削減に向けて、廃棄物の管理徹底と適正処理に努めます。
4. 節水やあらゆる資源の有効利用に努めます。
5. 印刷インキや製版薬剤等化学物質の適正管理に努めます。
6. 環境に配慮した印刷物の提供に努めます。
7. 環境経営方針を全社員に周知し、また、全社員は職場、地域、家庭で環境保全の推進に努めます。

2019年9月1日制定

小竹印刷株式会社

代表取締役社長



## 4. 環境目標及び環境活動計画

### (1) 環境目標及び環境活動計画

#### ① 二酸化炭素排出量の削減

- ・二酸化炭素の排出量削減のため、電力使用量と自動車燃料の使用量を削減します。  
都市ガスの使用量の削減は、使用量が少なく、二酸化炭素の排出量割合が微量のため、二酸化炭素総排出量に含みますが、削減目標には掲げず参考値とします。
- ・二酸化炭素排出量の削減目標は、2014年度実績を基準にして短期目標（2016年）2%、次年度目標（2017年）3%、中期目標（2018年）4%とします。電力使用量、自動車燃料の削減目標も同数値とします。

#### 【二酸化炭素排出量の削減方策】

- ・電力使用量の削減は、空調温度の適正化、不要照明の消灯を行います。
- ・自動車燃料（ガソリン）の削減は、エコドライブの徹底（急加速、急停止等の防止）、効率的なルートでの配送を行います。また車両購入時には燃費に良い車を導入します。

#### ② 廃棄物排出量の削減

- ・事務所から排出される事業系一般廃棄物と工場から排出される産業廃棄物に分けられます。
- ・廃棄物の削減目標は、2014年度実績を基準にして短期目標（2016年）2%、次年度目標（2017年）3%、中期目標（2018年）4%とします。

#### 【廃棄物排出量の削減方策】

- ・事業系一般廃棄物は分別を徹底し、産業廃棄物は廃プラスチック、金属クズ、廃油などで、作業ミスによる廃棄物の排出抑制を徹底します。

#### ③ 水道水使用量の削減

- ・水道水排出量の削減目標は、2014年度実績を基準にして短期目標（2016年）2%、次年度目標（2017年）3%、中期目標（2018年）4%とします。

#### 【水道水排出量の削減方策】

- ・水道水の使用量削減のため、節水を徹底し、節水シールの貼付等を実施します。

#### ④ 事務用品のグリーン購入

- ・事務用品のグリーン購入を推進し、購入比率を1%ずつ引き上げていきます。

#### ⑤ 環境配慮製品の開発・販売促進

- ・環境配慮製品として再生紙、植物インクの使用を推奨します。
- ・塩化ビニール製品をPET製品に変更していきます。
- ・フィルムレス化を推進していきます。
- ・廃棄時に分別しやすい製品を推奨します。などをベースに論議を進めて環境配慮製品の開発を行います。

(2) 環境目標(中期計画)

環境目標 (単 位)	基準年実績	短期目標	次年度目標	中期目標
	2014年 (9月～8月)	2016年 (9月～8月)	2017年 (9月～8月)	2018年 (9月～8月)
1 二酸化炭素排出 量削減【kg-CO <sub>2</sub> 】	【36,077】	(2%削減) 【35,352】	(3%削減) 【34,991】	(4%削減) 【34,630】
① 電力使用量 (kWh) 【CO <sub>2</sub> : kg】	61,533 【31,074kg】	60,302 【30,453kg】	59,687 【30,142kg】	59,071 【29,831kg】
② ガソリン使用量 (ℓ) 【CO <sub>2</sub> : kg】	2,155 【5,003kg】	2,119 【4,899kg】	2,090 【4,849kg】	2,069 【4,799 kg】
(参考) ガス使用量 (m <sup>3</sup> ) 【CO <sub>2</sub> : kg】	36 【75.9】	36 【75.9】	36 【75.9】	36 【75.9】
2 廃棄物排出量削減		(2%削減)	(3%削減)	(4%削減)
① 一般廃棄物 排出量 (kg)	630kg	617kg	611kg	605kg
② 産業廃棄物 排出量 (t)	0.56t	0.55t	5.54t	0.54t
3 水道使用量 (m <sup>3</sup> )	656 m <sup>3</sup>	(2%削減) 643 m <sup>3</sup>	(3%削減) 636 m <sup>3</sup>	(4%削減) 630 m <sup>3</sup>
4 事務用品の グリーン購入 (%)	53%	55%	56%	57%
5 環境配慮製品の 開発・販売促進	フィルムレス 90%	92%	93%	94%

注②年度は、9月1日～翌年8月30日

注②：電力の排出係数は、平成26年度の電気事業者別二酸化炭素排出係数：0.505を使用した。

(3) 2017 年度環境目標の実績及評価

環境目標 (単 位)	基準年実績	今期目標	実 績	評 価
	2014 年 (9 月～8 月)	2017 年 (9 月～8 月)		対基準年 (達成率)
1 二酸化炭素排出 量削減【kg-CO <sub>2</sub> 】	【36,077】	(3%削減) 【34,995】	【31,992】	○ (11.3%削減)
③ 電力使用量 (kWh) 【CO <sub>2</sub> : kg】	61,533 【31,074kg】	59,687 【30,142kg】	54,367 【27,455kg】	○ (11.7%削減)
④ ガソリン使用量 (ℓ) 【CO <sub>2</sub> : kg】	2,155 【5,003kg】	2,090 【4,849kg】	1,920 【4,458kg】	○ (11.0%削減)
(参考) ガス使用量 (m <sup>3</sup> ) 【CO <sub>2</sub> : kg】	36 【75.9】	36 【75.9】	31 【78.1】	—
2 廃棄物排出量削減		(3%削減)		
③ 一般廃棄物 排出量 (kg)	630kg	611kg	540kg	○ (14.3%削減)
④ 産業廃棄物 排出量 (t)	0.56t	0.54t	0.1t	○ (82.2%削減)
3 水道使用量 (m <sup>3</sup> )	656 m <sup>3</sup>	(3%削減) 636 m <sup>3</sup>	578 m <sup>3</sup>	○ (9.2%削減)
4 事務用品の グリーン購入 (%)	53%	56%	66%	○
5 環境配慮製品の 開発・販売促進	フィルムレス 90%	93%	98%	○

注②年度は、9月1日～翌年8月30日

注②：電力の排出係数は、平成26年度の電気事業者別二酸化炭素排出係数：0.505を使用した。

## 5. 環境活動計画の取組結果の評価

環境目標	環境活動計画の取組項目	評価	評価・今後の取組等
1 二酸化炭素排出量削減			
①電力使用量削減	不要照明の消灯	○	さらに徹底し節電する。
	エアコンの温度管理	○	温度管理を徹底する。
②ガソリン使用量削減	エコドライブの徹底	○	燃費のチェックを進めた結果効果があった。
2 廃棄物排出量削減			
①一般廃棄物排出量削減	分別の徹底	○	さらに分別を進めたい。
	資材のリユーズブル	×	リユーズブル用の資材を使いきれずに廃棄した。
②産業廃棄物排出量削減	作業ミスによる廃棄の削減	○	自現機廃棄により、ほとんどなくなった。
3 水道使用量削減	節水の呼びかけ、ステッカー	○	うまく節水できた
4 事務用品のグリーン購入	グリーン製品を選択する	○	エコ認定されていない製品を一時的に購入したため、グリーン比率は、66%であった
5 環境配慮製品の開発・販売促進	フィルムレス化	○	フィルムレス化は順調、ほとんど達成できた。
<p><b>【取組の経過】</b>            基準年（2014年9～2015年8月）と活動期間（2017年9月～2018年8月）との比較では、CO2削減等ほぼ目標を達成した。廃棄物の削減にさらに努力をしていきたい。</p> <p><b>【次年度の取組】</b>            今後さらにE A 2 1活動を徹底して活動していきたい。自動車燃費の調査や節水とゴミの減量、削減を推進したい。</p>			

## 6. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価並びに違反、

### 訴訟等の有無

当社に適用される主な環境関連法規とその遵守状況を確認した結果は下記の通りであり、また関係当局よりの違反等の指摘・訴訟は過去三年間ありません。

環境関連法規等	適用される事項	遵守状況の確認・評価
廃棄物処理法	一般廃棄物・産業廃棄物の適正処理 産業廃棄物管理票交付状況報告	委託契約書、マニフェストの 点検（遵守） (届済)
騒音規制法	特定施設届出、基準遵守	昭和 52 年届出、基準遵守
振動規制法	特定施設届出、基準遵守	昭和 52 年届出、基準遵守
東京都環境確保条例	工場認可、基準遵守	昭和 55 年 9 月認可、基準遵守
フロン排出抑制法	第一種特定製品の保守管理	保守管理の実施

## 7. 代表者による全体評価と見直しの結果

社員の協力で、多くの目標は達成し、エコアクションの仕組み、取組状況はおおむね良好であり、環境経営に向けて順調な一年であったと考えています。

今年度は業態の変化に対応して自動現像機を廃棄しました。それに伴い産業廃棄物や水道水の使用量が減りました。ガソリン、電気などの削減ができました。

今後、必要な改善事項については社員への教育・周知徹底を図ってまいります。

以上

次回の環境活動レポートは、平成 31 年 11 月頃に作成します。